

### (3) 訪問教育対象数・担当教員数の推移

年度 項目	52	53	54	55	56	57	58	59	60
対象数	52	72	107	109	105	112	125	121	126
担当 教員数	12	18	25	29	32	33	33	36	39

### (4) 心身の障害による就学猶予、免除数の推移

年度 項目	52	53	54	55	56	57	58	59	60
就学 猶予数	84	68	46	35	34	23	14	14	9
就学 免除数	70	45	11	7	4	3	5	4	5

※ 全就学猶予・免除者のうち、心身に障害を有するために猶予・免除となった者の数

## 3 教職員人事・任用

- (1) 盲・聾・養護学校の人事については、その教育内容、指導法等の特殊性に鑑み、経験豊かな有為な人材を確保し、教職員組織の強化と、教育活動の充実を図ることに努めた。そのため、小・中・高等学校との積極的な交流を行うとともに、昭和57年度より改善充実した特殊教育関係の採用事務の一元化の一層の充実を図り、高い専門性を有する教員の適切な配置と、教育効果の向上に努めた。
- (2) 人事異動の概要については、第3章義務教育及び第4章高等学校教育の中の教職員人事・任用の項を参照のこと。

## 4 学校の設置

- (1) いわき養護学校校舎の設置  
第3期工事  
昭和60年度 校舎1,115㎡の工事を終了した。

# 第2節 学校教育

## 1 概要

- (1) 指導行政の基本方針  
昭和60年度より11年間にわたる「第三次福島県長期総合教育計画」の初年度における養護教育の重点施策として、「障害をのりこえ 社会参加をめざす 養護教育の推進」を掲げ、心身に障害を持つ児童生徒に対して、その障害の種類、程度、能力、適性等に応じた教育を行い、その可能性を最大限に伸ばし、可能な限り社会への参加を図るとともに、障害を持たない者も、幼少年時代から、障害者に対する正しい理解と認識を深めるように努めるとともに、適正な就学指導を推進し、教育内容、方法の充実を努めた。
- (2) 指導組織  
課長、主幹、課長補佐、主任管理主事、管理主事、主任指導主事各1名、指導主事4名及び副主査2名、各教育事務所の養護教育担当指導主事7名(兼任)、及び養護教育担当学校教育指導委員14名(県立学校6名、公立学校8名)をもって指導にあたった。

### (3) 学校教育指導の重点

- ① 盲・聾・養護学校の実態に即した運営に努めた。
  - ア 児童生徒の障害の実態に即して、特色ある学校づくりに努めた。
  - イ 福祉、医療等の関係機関と緊密に連携し、障害児が全面的発達が進められるように努めた。
  - ウ 重複障害教育及び訪問教育の充実を努めた。
- ② 特殊学級運営の適正化を図った。
  - ア 障害の種類、程度に応じた特殊学級の適切な運営の推進に努めた。
  - イ 一人一人の実態に応じた具体的な到達目標を明確に把握し、個別指導を重視した指導に努めた。
  - ウ 通常学級の児童生徒及び担任との交流活動の充実を図った。
  - エ 養護教育の理念や指導について、全職員が研修に努め養護教育の理解ある環境づくりに努めた。
- ③ 適正な就学指導の推進に努めた。
  - ア 校内の就学指導組織を学校の校務分掌に位置づけ、計画的な活動の推進に努めた。
  - イ 各学校の就学指導組織と市町村教育委員会等との連携を図り、教育措置の変更を含む適正就学の推進に努めた。
  - ウ 校内の就学指導担当者は、保護者や地域社会の啓発に努め就学指導の円滑化を図った。
- ④ 教育課程の適正な編成に努めた。
  - ア 指導形態や内容・方法に創意工夫を加え、教育課程の改善に努めた。
  - イ 適切な時数の確保に努めるとともに、一人一人の実態に応じ、弾力的な教育課程の編成に努めた。
  - ウ 「創意を生かした教育活動」を重視し、特別活動とのかかわりについて改善を図った。
  - エ 小・中・高の一貫教育等、一人一人の発達をもとに検討を加え、教育課程の改善に努めた。
- ⑤ 交流教育の推進に努めた。
  - ア 交流教育の趣旨を徹底し、相互の望ましい協力体制づくりに努めた。
  - イ 児童生徒に交流の目的についての指導を徹底し、学校の教育計画への定着に努めた。
  - ウ 計画的な交流が契機となって、日常的な交流活動に発展するように努めた。
  - エ 交流活動が、障害児に対する正しい理解を地域社会に拡大するように努めた。
- ⑥ 研修の充実と組織化に努めた。
  - ア 教職員が専門職としての意識と意欲の向上に努めるよう研修活動の充実を図った。
  - イ 研修会への参加を計画的にすすめるとともに、研修内容の普及に努めた。
  - ウ 校内研修体制の充実を図り、組織的な研修活動の推進に努めた。
  - エ 研究指定校や各種実践研究の成果を、校内の日常活動にとり入れるように努めた。
- ⑦ 進路指導の充実を努めた。
  - ア 児童生徒一人一人の将来の進路を予測し、教職員の